

# 船舶事故調査報告書

平成26年9月25日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	衝突（護岸）
発生日時	平成26年5月18日 00時10分ごろ
発生場所	広島県呉市倉橋島北北東岸 呉市所在の音戸灯台から真方位188° 1,250m付近 （概位 北緯34° 11.3′ 東経132° 32.1′）
事故調査の経過	平成26年5月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 第三だいえい丸、222トン 140482、佐野海運有限会社 57.17m×9.80m×5.65m、鋼 ディーゼル機関、735kW、平成19年1月20日
乗組員等に関する情報	船長 男性 42歳 四級海技士（航海） 免許年月日 平成18年7月28日 免状交付年月日 平成26年3月5日 免状有効期間満了日 平成28年7月27日 二等航海士 男性 64歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和53年2月24日 免状交付年月日 平成24年10月9日 免状有効期間満了日 平成30年4月20日
死傷者等	なし
損傷	本船 球状船首部に凹損及び亀裂 護岸 コンクリートが破損
事故の経過	本船は、船長及び二等航海士ほか2人が乗り組み、平成26年5月17日23時50分ごろ呉市呉港を出港し、18日00時00分ごろ、二等航海士が、船長から引き継いで単独で船橋当直に就き、操舵スタンドの後方に立ち、両手を同スタンドの手すりに置いて操船に当たり、音戸瀬戸北口灯浮標を左舷側に見て自動操舵に切り替え、約11ノットの対地速力で音戸ノ瀬戸中央付近を航行するように南西進した。

	<p>二等航海士は、音戸ノ瀬戸の第二音戸大橋下を通過した頃、居眠りに陥り、ふと目覚めたとき、船首方至近に倉橋島北北東岸の護岸を認め、急いで機関を中立にし、続いて微速力後進、全速力後進としたが、00時10分ごろ、本船は、護岸と衝突した。</p> <p>船長は、機関の回転数が急に下がったので、不審に思い、操舵室に向かう途中に大きな衝撃音を聞いて事故の発生を知り、海上保安庁に通報を行った。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 高潮時</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約1.2m、船尾約2.6mであった。</p> <p>本船は、倉橋島西岸とその西方の江田島東岸との間の早瀬瀬戸を經由し、17日02時ごろ呉港に入港しており、同瀬戸を航行するときに操船していた二等航海士は、同瀬戸付近は以前よりもかき筏<small>いかだ</small>の数が増え、水路が狭くなったと感じていた。</p> <p>船長は、二等航海士に当直を引き継ぐとき、早瀬瀬戸を航行して山口県徳山下松港に向かうことを指示したが、二等航海士は、この指示を覚えておらず、早瀬瀬戸にはかき筏が多く設置されていたので、同瀬戸を通らずに音戸ノ瀬戸を通ることにした。</p> <p>二等航海士は、昼夜を通し、音戸ノ瀬戸の航行経験が豊富であった。</p> <p>二等航海士は、悩みごとのため、本事故当日までの数日間、3～4時間程度の睡眠であり、熟睡できなかった。</p> <p>二等航海士は、4月18日に本船に乗船し、5月20日に下船する予定であり、本事故当時も船橋当直に就く際、少し眠気を感じていたが、もうすぐ下船するので、船長に何も言わずに船橋当直に就いた。</p> <p>二等航海士は、1.5海里レンジとしたレーダー及びGPSプロッターを作動させていた。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、倉橋島北北東方沖を自動操舵で南西進中、単独で船橋当直中の二等航海士が居眠りに陥ったことから、倉橋島北北東岸の護岸に衝突したものと考えられる。</p> <p>二等航海士は、本事故当日までの数日間、3～4時間程度の睡眠であり、熟睡できなかったことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、夜間、本船が、倉橋島北北東方沖を自動操舵で南西進中、単独で船橋当直中の二等航海士が居眠りに陥ったため、倉橋島北北東岸の護岸に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>

<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 体調がよくない場合や眠気を感じているときは、操船に従事せず、他の乗組員と交代すること。</li></ul>
-----------	---